

2022. 5. 29 (日) 使徒1:15~26

1:15 そのころ、百二十人ほどの人々が一つになって集まっていたが、ペテロがこれらの兄弟たちの中に立って、こう言った。

1:16 「兄弟たち。イエスを捕らえた者たちを手引きしたユダについては、聖霊がダビデの口を通して前もって語った聖書のことばが、成就しなければなりませんでした。

1:17 ユダは私たちの仲間として数えられていて、その務めを割り当てられていました。

1:18 (このユダは、不義の報酬で地所を手に入れたが、真逆さまに落ちて、からだが真二つに裂け、はらわたがすべて飛び出してしまった。

1:19 このことは、エルサレムの全住民に知れ渡り、その地所は彼らの国のことばでアケルダマ、すなわち『血の地所』と呼ばれるようになっていた。)

1:20 詩篇にはこう書いてあります。『彼の宿営が荒れ果て、そこから住む者が絶えますように。』また、『彼の務めは、ほかの人が取るように。』

1:21 ですから、主イエスが私たちと一緒に生活しておられた間、

1:22 すなわち、ヨハネのバプテスマから始まって、私たちを離れて天に上げられた日までの間、いつも私たちと行動をともにした人たちの中から、だれか一人が、私たちとともにイエスの復活の証人とならなければなりません。」

1:23 そこで彼らは、バルサバと呼ばれ、別名をユストというヨセフと、マツティアの二人を立てた。

1:24 そしてこう祈った。「すべての人の心をご存じである主よ。この二人のうち、あなたがお選びになった一人をお示してください。

1:25 ユダが自分の場所へ行くために離れてしまった、この奉仕の場、使徒職に就くためです。」

1:26 そして、二人のためにくじを引くと、くじはマツティアに当たったので、彼が十一人の使徒たちの仲間に加えられた。

<説教>

イエスは使徒たちが見ている間に天に上げられ、雲に包まれ、弟子たちの目には見えなくなりました。(1:9-11)

そのイエスの約束どおり自分たちの上に聖霊が臨み、イエスの証人としていただくために使徒たちは〈女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心一つにして祈って〉(1:14)いました。

〈そのころ〉(15)のこととして、使徒たちがイスカリオテのユダに代わる新しい使徒を一人選んだことが本日の聖書箇所には記されています。

まずイスカリオテのユダのこと(16-20)、そしてそのユダに代わる新たな使徒選びのこと(21-26)が記されています。

ペテロ(をはじめとした十一使徒たち、そして女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たち)は祈っている中で、またおそらくは祈りつつ聖書を読み学んでいる中で神から「示された」のだと思います。

それはあの〈イエスを捕らえた者たちを手引きしたユダについて〉(16)です。(16-20)

十一使徒たちにとって、この〈ユダ〉のことはずっと彼らの心の「つかえ」であり「重し」だったと思います。

〈私たちの仲間として数えられていて、その務めを割り当てられて〉(17)いたほどのユダがどうしてイエスをユダヤの祭司長たち長老たちに売り渡し、引き渡してしまったのか、しかもその後で悔い改めずに首をつって死んでしまったのか、分からなかったでしょう。

それはユダ個人の問題としては片づけられないこと、イエスによって召された十二使徒の〈仲間〉としての自分たちの問題のような感じでも残っていたと思います。

このユダの問題が解決されなければ聖霊に臨んでいただくこともイエスの証人となることもできないと思い、ペテロたちは必死に祈ったのでしょう。

なお、18、19 節の日本語訳では括弧付きになっている説明文は、このユダの裏切りのその後について異邦人の〈テオフィロ〉のために記したものです（ルカはその福音書ではユダのその後については書いていませんでした）。

さてそんな祈りの中で〈聖霊がダビデの口を通して前もって語った聖書のことば〉(16)、〈詩篇〉(20)を思い起こしたのでしょう。

『彼の宿営が荒れ果て、そこから住む者が絶えますように。』は 69 篇 25 節、『彼の務めは、ほかの人が取るように。』は 109 篇 8 節です（どちらもダビデが裏切り者、敵に対する神の報いを祈ったものです）。

69 篇はその他に 9 節がヨハネ 2:17 に、21 節はマタイ 27:34,41 に記されており、また 109 篇は 25 節がマタイ 27:39 に記されていますので、69 篇も 109 篇もダビデの子イエス・キリストの苦難・受難を預言的に歌った詩篇とすることができます。

復活のイエスが弟子たちに「わたしについて、モーセの律法と預言者たちの書と詩篇に書いてあることは、すべて成就しなければなりません。」と言って彼らに聖書を悟らせるために彼らの心を開いてお教えになり、続けて彼らがイエスの証人と言われ、聖霊の約束をなされたことをルカは福音書の方にも記していました（ルカ 24 章）。

そのときの〈詩篇〉にこの 69 篇や 109 篇が含まれていたのかもしれませんが。

だから、69:25 のとおりに〈彼の宿営が荒れ果て、そこから住む者が絶え〉るというようにユダが惨めな最期をとげたということと、109:8 のとおりに〈彼の務めは、ほかの人が取〉ってユダの代わりに一人が十一使徒に加わって〈イエスの復活の証人とならなければなりません〉とペテロが言ったのはペテロの個人的な意見ではありませんでした。

それは〈聖書のことば〉の〈成就〉であり、復活の主イエスご自身のみこころにかなったことだったのです。

そして懸案だったユダの問題も、それは〈聖霊がダビデの口を通して前もって語った聖書のことば〉の〈成就〉だったということでペテロたちは満足して、もうそれ以上のことを知ろうとはせず、ここに解決を見たのだと思います。

〈ですから〉とペテロは続けました。(21-26)

〈彼の務め〉なる〈使徒職〉を果たさず〈離れてしまった〉ユダに代わる一人の資格は〈主イエスが私たちと一緒に生活しておられた間、すなわち、ヨハネのバプテスマから始まって、私たちを離れて天に上げられた日までの間、いつも私たちと行動をともにした人〉(21,22)でした。

「使徒」とは「使者、大使、特別な使命を与えられて派遣された者」という意味であり、

派遣した人の権威を持ったまさに代表者、代理人ですから、この地上に生きていたイエス、十字架で死なれしかし三日目によみがえられたイエス、昇天し、今も生きておられるイエスを知っている人でなければなりませんでした。

そしてそもそも十二使徒はイエスの直接の指示によって選ばれていましたので、ここでもその欠けた一人を選ぶのも主イエスの指示を仰がなければなりませんでした。

それで、〈ヨセフとマツティアの二人を立て〉て主に「すべての人の心をご存じである主よ。この二人のうち、あなたがお選びになった一人をお示してください。」と〈彼ら〉(ペテロや他の使徒たちだけでなく、その場にいた〈百二十人ほどの人々〉の皆が〈祈った〉)のです。

〈祈った〉後で、〈すべての人の心をご存じである主〉が〈お選びになった一人〉が誰なのかという主の〈お示し〉を知る方法としては、そのときは、旧約聖書の時代からイスラエルの民の間で行われて来た〈くじを引く〉ことしか考えられなかったのでしょう。

〈すべての人の心をご存じである〉お方は〈主〉なる神、イエス・キリストの他はありません。

そして〈すべての人〉とは、選ばれる者、選ぶ者両方の人のことでしょう。

〈バルサバ〉(「安息日の子」または「誓いの子」または「長老の子」)と呼ばれ、〈ユスト〉(「正義漢」「正直者」?)というラテン語名も持っていた〈ヨセフ〉の方が〈マツティア〉よりも「人気」があったと見てもいいようです(ルカは名前も先に挙げています)。

しかし結果、〈すべての人の心をご存じである主〉の〈くじはマツティアに当たったので、彼が十一人の使徒たちの仲間に加えられた〉のでした。

私たちが改めて日々自らが、また教会が〈すべての人の心をご存じである主〉の目の御前にあることを覚えて〈心〉を正す必要があります。

〈すべての人の心をご存じである主〉、〈聖書のことば〉に依り頼み、主のみことば、主のみこころが成就することを信じ、祈り求め、〈聖書のことば〉とともに働きになる聖霊の〈お示し〉に従って行きたいと願います。